

<p>金澤 正美先生 (校長)</p> <p><u>かんがえる子ども</u> 914.6-7</p> <p>安野光雅 福音館書店</p> <p>考えることは生きること！</p> <p>著者は、『旅の絵本』『ふしぎなえ』『はじめてであうすうがくの絵本』など、たくさんの絵本を生み出してきました。</p> <p>子どもについて、学ぶことについて、自分で考えるヒントについて、著者の人生経験を通して語られています。</p> <p>「考える」ことは、普通に暮らすこと、「本を読むこと」は、自分の考えかたを育てることなど、自分で考えることの大切さに気付かされると同時に、「自分で考えること」で生き方も変わることを実感させられます。少し難しいかもしれませんが、著者の絵本の作品紹介として見る楽しさもあります。</p>	<p>長田 学先生 (副校長)</p> <p><u>ゾウの時間 ネズミの時間</u></p> <p><u>～サイズの生物学～</u> 481-㊦</p> <p>本川達雄 中公新書</p> <p>おおきいきき物と小さな生き物とが地球上に存在していることの意味</p> <p>様々な生き物が地球上に溢れています。その生き物すべてに時の経過があり、また生活をしています。是非、皆さんにも尊い時間について考え、高校生活を考えるきっかけになればと思います。</p>
<p>中島 聡司先生 (副校長)</p> <p><u>深夜特急</u> 915.6-ㄱ</p> <p>沢木耕太郎 新潮社</p> <p>一人旅をしてみたい人は、ぜひ読んでみてくださいね！！</p> <p>バックパック(背中に背負う大きい鞆)1つだけで世界を旅する主人公が、アジアやヨーロッパで様々な体験をしていきます。バックパッカーのバイブルと言われる本です。いつか一人旅をしてみたい人には、とても面白いと思います。</p>	<p>岡村 順子先生 (国語科)</p> <p><u>罪の声</u> 913.6-ㄱ</p> <p>塩田武士 講談社</p> <p>未解決事件に基づいたミステリーの傑作！</p> <p>1984~85年、子供たちに親しみのある食品会社を脅迫した通称「グリコ・森永事件」は、すでに時効となって久しい。この未解決事件を素材に、小説ならではの見事なフィクション化に成功した作品です。この小説は最近映画化されており、小説と映像の世界を見比べるのも、面白いと思います。</p>
<p>岡村 順子先生 (国語科)</p> <p><u>NHK国際放送が選んだ日本の名作</u></p> <p><u>「1日10分のしあわせ」</u> B913.6-ㄱ</p> <p>朝井リョウ・石田衣良・小川洋子・角田光代・坂木司・重松清・東直子・宮下奈都 双葉文庫</p> <p>珠玉の短編ばかりです！</p> <p>NHK WORLD JAPANのラジオ番組で17言語に翻訳されて朗読された作品を集めたアンソロジー(諸作家の選集)。10分前後で読み終わる短編ばかりなので、それぞれの作家の個性あふれる作品を手軽に楽しめます。電車の中で、昼休みに、また夜寝る前に一編ずつなど、楽しみ方もいろいろ。小さな物語の中で描かれた様々な人生の機微を、遠い外国で、どのような人々がどのように受け止めたかを想像してみる楽しみも生まれます。この「しあわせ」出版後、「1日10分のごほうび」「1日10分のぜいたく」とシリーズ化されており、作家の顔ぶれがより多彩になってきました。</p>	<p>齋藤 隆平先生 (国語科)</p> <p><u>手紙屋 蛍雪篇</u> 159-ㄱ</p> <p>喜多川泰</p> <p>ディスカヴァー・トゥエンティワン</p> <p>「なぜ勉強しなければいけないのか」一度でも考えたことのある人にはぜひ読んでほしい一冊。</p> <p>「勉強という道具は、自分をピカピカに磨いて、昨日とは違う自分になるためにある。」</p> <p>一度は誰でも考えたことのある「何のために勉強するのか」「何のために進学するのか」。受験という壁を越えるために葛藤している主人公「和花」と「手紙屋」が行った10通の文通を通して、勉強をする意味を考える内容になっています。なぜ勉強をしなくてはいけないのか。そう考えたことのある人、ぜひ一度手に取って読んでみてください。</p>

<p>齋藤 隆平先生 (国語科)</p> <p><u>すべて神様の十月</u> B913.6-9</p> <p>小路幸也 P H P 文芸文庫</p> <p>日常の中にひっそりと暮らしている 神様たちの、少しほっこりする短編集</p> <p>「何より不幸は心に突き刺さりますが、本当の幸せはただそっと寄り添うように訪れる。だから、気づかないけど、人間は毎日幸せに触れているんだって。」</p> <p>普段、何気なく生活している中で起こっていることは、良いことも悪いことも意味があるということ。一見悪いと思っていることも、実は良いように転じるための前段階であるということ。</p> <p>読書苦手な人も楽しめる入門編の短編集になっています。読書を始めようかなと思っている人、ほっこりしたい人、おすすめの一冊です。</p>	<p>齋藤 隆平先生 (国語科)</p> <p><u>超一流の雑談力</u> 809-7</p> <p>安田正 文響社</p> <p>読むだけでコミュニケーション 能力が格段に上がる一冊！</p> <p>「雑談」と聞くと、「意味のない話をする」と思う人も多くいるかもしれませんが、しかし、著者は「雑談とは本来、人間関係や仕事の質を根本から変えてくれる魔法のようなもの」だと言っています。本書は、雑談力を高めるための具体的で実践的な方法を紹介しています。普段、人とコミュニケーションをとるのが苦手と感じている方、自分は人見知りと感じている方、そんな人たちにおすすめの一冊となっています。</p>
<p>大野 潤治先生 (国語科)</p> <p><u>はじめての短歌</u> 911.1-ホ</p> <p>穂村弘 河出文庫</p> <p>役に立たないものの輝き</p> <p>筆者は、短歌の中では日常の価値が反転していくと言う。つまり、世の中であたりまえとなっている「素敵」が、短歌ではつまらなくなるのである。確かに、本書で挙げられている短歌に詠まれているものは社会的な価値に乏しいものばかりだ。しかし、その社会的な価値観になじめないものが言葉として紡ぎだされた時、お金では買えない喜びを得ることができるのである。</p> <p>是非、世の中の価値観や評価の尺度から外れた世界の面白さに触れてみてほしい。</p> <p>ほんとうにおれのもんかよ冷蔵庫の卵置き場に落ちる涙は 穂村弘</p>	<p>大野 潤治先生 (国語科)</p> <p><u>カキフライが無いなら 来なかった</u> 911.3-7</p> <p>又吉直樹 せきしろ 幻冬舎文庫</p> <p>世の中に馴染まないもの、不自然なものの輝き</p> <p>芥川賞作家であると同時にお笑い芸人でもある又吉直樹さんと文筆家のせきしろさんによる、自由律俳句集。</p> <p>「赤い線をどこに引くのか隣を覗く」 「信長と同じ手相を持つ定食屋の主人」 「単三電池握りしめて単三電池を買いに行った日」 「家具屋のソファに二人で座る」 「自分のだけ倒れている駐輪場」</p> <p>作者の何気ない生活の瞬間を切り取ったものだと思うのだが、わずか十数文字の中に生きることやそれを言葉にするもろろが感じられる。おすすめです。</p>
<p>大野 潤治先生 (国語科)</p> <p><u>カンガルー日和</u> B913.6-ム</p> <p>村上春樹 講談社文庫</p> <p>上手すぎて好きになれない</p> <p>村上春樹といえば、近年秋になると騒がれるノーベル文学賞候補者の一面が強いかもしれないが、個人的には初期の頃の短編小説にこの人の文章の魅力を最も感じる。比喩表現をはじめ、とにかく文章が饒舌で澁みない。スラスラと一冊読ませてしまう。どうやったらこんな文章が書けるのかも思う。</p> <p>本書は「とんがり焼の盛衰」「スパゲティーの年に」「4月のある晴れた朝に 100 パーセントの女の子に出会うことについて」をはじめ、文章の巧さに吞まれ過ぎず、舌の根に苦みの残るような作品が多いのが魅力だ。</p>	<p>山口 正澄先生 (国語科)</p> <p><u>世界から猫が消えたなら</u> B913.6-カ</p> <p>川村元気 小学館文庫</p> <p>あなたにとって 一番大切なものって何ですか？</p> <p>深刻な脳腫瘍と診断された青年は、「世界から1つだけ何かを消す。その代わりに1日の命を得られる。」という取引を悪魔と交わす。悪魔から消す物を提案されるごとに、そして実際に消えるごとに、彼は大切なことに気付いていく……。</p> <p>これが物語のポイントになる内容ですが、そこでの青年の姿や描かれる数々の場面に心打たれて、この小説に魅力を感じました。特に猫好きの人にとっては悲しく感じられるかもしれませんが、猫好きの人にもそうではない人にも、オススメの一冊です。</p>

<p>山口 正澄先生 (国語科)</p> <p><u>アルジャーノンに花束を</u> B933-4</p> <p>ダニエル・キイス</p> <p>早川書房 (ダニエル・キイス文庫)</p> <p><u>賢くなれる手術があったら 受けますか？</u></p> <p>幸せな生き方とは何かを考えさせられました。いつの日か、原作の英語版で読めたらと思う1冊です。</p>	<p>今中 一三先生 (国語科)</p> <p><u>旅人</u> 289-1</p> <p>湯川秀樹 角川ソフィア文庫</p> <p><u>人は人によって 大きく変わる！変わる！</u></p> <p>日本人として初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士が自らの前半生を振り返る。友人の一言によって理論物理学の道が開く。「旅人」とタイトルあるように人や本の出会いは、人を様々な道に導いてくれる。是非一読あれ！</p>
<p>今中 一三先生 (国語科)</p> <p><u>十二番目の天使</u> 933-7</p> <p>オグ・マンディーノ 求龍堂</p> <p><u>人はどうやって前に進んでいくのか というヒントを与えてくれる物語。</u></p> <p>仕事で認められ、家族にもめぐまれ、人生の最高潮のときを迎えていたジョンに、ある日突然、愛する妻と一人息子を事故で失うという悲劇が襲う。</p> <p>ひとりぼっちになった彼はその日から生きる気力をなくし、自殺を考える。</p> <p>そんな彼に親友ビルはリトルリーグの監督を依頼する。</p> <p>それは彼を立ち直らせたいと願う親友ができる精一杯のことだった。</p> <p>そのチームがかつて自分もプレーしていたことがある「エンジェルズ」であると知り、彼は監督を引き受けることにする。</p> <p>彼が率いる「エンジェルズ」には、ハマばかりする一人の小さな少年ティモシーがいた。</p> <p>ボールは取れない。ヒットも打てない。まったくチームのお荷物であった。</p> <p>しかしジョンはその少年ティモシーが気になってしかたがない。</p> <p>息子にそっくりだったからだ。</p> <p>ティモシーはへたくそなのに、逃げ出すことなく必死にプレーを続ける。</p> <p>いつも精一杯走り、精一杯バットを振る。</p> <p>いつしかティモシーの「うまくなりたい」「あきらめない」という純真無垢な気持ちが、チーム全体の雰囲気を変えていく。</p>	<p>豊田 基裕先生 (地歴公民科)</p> <p><u>あなたがもし奴隷だったら…</u> E933-レ</p> <p>ジュリアス・レスター 文</p> <p>ロッド・ブラウン 絵</p> <p>片岡しのぶ 訳 あすなろ書房</p> <p><u>絵本で学ぶ、人類の歴史の悲しい汚点と 真の自由の意味</u></p> <p>「何百万のアフリカ人が運ばれた。何百万人が死んだか、だれも知らない。サメたちのほかに。」人間が、同じ人間を道具や家畜のように売り買いし、所有する奴隷制度。人間としてのすべての自由と誇りを奪われ、ひたすら主人のために機械のように働かされ続けるだけの奴隷の人生。その中で、人間を取り戻すために立ち上がる人々。しかし、人間としての「自由」を勝ち取るためまでの道は決して平坦ではありませんでした。作者の挑発的なまでの呼びかけと写真以上に訴える絵の力の前に、たじろぎ苦しくもなるでしょう。</p> <p>昨年、アメリカで、アフリカ系アメリカ人に対する警察の残虐行為をきっかけに Black Lives Matter (ブラック・ライブズ・マター、BLM と略される) と呼ばれる人種差別抗議運動が起こったように、勝ち取ったはずの「自由」を本当に自分のものにするための努力は今も続けられています。同じ人間として、想像をふくらませ、この史実に正面から向き合ってみてください。</p>
<p>今井 路子先生 (家庭科)</p> <p><u>教室に並んだ背表紙</u> 913.6-7</p> <p>相沢沙呼 集英社</p> <p><u>図書館っていいよね。</u></p> <p>図書館(図書室)と本と司書の先生の素晴らしさを再確認できる本です。</p> <p>辛い思いをしている人、した人にこそ読んで欲しい。あなたならどの話が、どの言葉が心に響くのかしら。学びの多い本でした。</p>	<p>木原 智代先生 (家庭科)</p> <p><u>明日の子供たち</u> 913.6-7</p> <p>有川浩 幻冬舎</p> <p><u>児童養護施設って知っていますか？</u></p> <p>児童養護施設で暮らす高校生が「児童養護施設を知ってもらいたい」との思いで作家有川浩さんに手紙を出したことでこの作品は、生まれたそうです。</p> <p>この本は『あしたの家』で暮らす子どもたちと職員の話。よく知らないそこには、皆さんと同じように悩む子供たちと、大人たちがいました。</p>

<p>垣原 沙樹先生 (家庭科)</p> <p><u>百瀬、こっちを向いて。</u> 913.6-ナ</p> <p>中田永一 祥伝社</p> <p><u>瑞々しい文章で描かれる恋愛短編集。</u></p> <p>高校生が主人公の恋愛ストーリーを4編収録しています。どの作品も瑞々しい文章で読みやすく、色鮮やかに情景が脳裏に浮かび上がり、物語の世界に引きずりこまれていく作品です。4作に共通するのは主人公全員、人付き合いが苦手で恋愛に向向きではないこと。しかし不器用に悩み、否定をしながら成長していく姿が心に残るストーリーとなっています。読書後の爽快感がすがすがしく、気軽に比較的短い時間で読める1冊です。映画化もされている有名な1冊です。</p>	<p>吉岡 大介先生 (商業科)</p> <p><u>深夜特急</u> 915.6-サ</p> <p>沢木耕太郎 新潮社</p> <p><u>危険で楽しい「旅の教科書」</u></p> <p><u>一あてのない旅にあこがれる人に</u></p> <p><u>オススメの旅行ノンフィクション</u></p> <p>「デリー（インド）からロンドンまで乗合バスだけで行けるかどうか」を試そうと思って旅に出た「私」。しかし道中はおろか起点のデリーに着くまでの間にも、あっちで10日、こっちで半月…と行き当たりばったりの寄り道を繰り返す。とても真似できないけれど、でもちょっと体験してみたい冒険大旅行。</p>
<p>高橋 一江先生 (商業科)</p> <p><u>英語独習法</u> 830-イ</p> <p>今井むつみ 岩波新書</p> <p><u>母国語の呪縛を解き放て</u></p> <p>I ate a chicken.</p> <p>あなたがこの英文を読んで違和感を感じたらこの本を読む必要はありません。</p> <p>単純な英文だと思った人にお勧めしたい本です。</p> <p>認知科学の見地から合理的な英語の学習法について述べられています。</p> <p>文法の知識よりも語彙力を付ける。多読よりも精読が効果的である…。</p> <p>なぜそうなのか理由が述べられているので説得力あります。</p> <p>ただこの本は簡単に英語が身につく画期的方法を提示しているわけではありません。</p> <p>いくら理屈を研究し、理論を究めても練習を積み重ねなくては何事も習得できません。</p> <p>There is no royal road to learning.</p>	<p>佐藤 友亮先生 (理科)</p> <p><u>水族館のはなし</u> 480-ナ</p> <p>中村元 技報堂出版</p> <p><u>水族館に行けない今、</u></p> <p><u>水族館のことを知ろう！</u></p> <p>コロナのせいで、好きに水族館へいけない！！！！</p> <p>関東の水族館を制覇した私にとってはこれほどまでにストレスはないのです・・・</p> <p>さらに、油壺マリンパークは9月で閉館・・・</p> <p>あのサメやシイラが入ったドーナツ型水槽も、メガマウスの標本も見納めとは悲しすぎる！</p> <p>とまあ、そんな感じに水族館に飢えている私が、図書室で出会ったのがこの本。</p> <p>出版がなんと1992年！こんな古い本が面白いの??</p> <p>面白いんです。なぜなら視点が日本の水族館がたくさんできた時代のものなのでから。</p> <p>当時、どのような考え方で水族館そのものやそこにある水槽が作られたのか。</p> <p>歴史をたどることで、水族館に行けた時に新しい視点をもてさらに楽しめること間違いなし！</p>
<p>熊川 雪路先生 (地歴公民科)</p> <p><u>世界の絶景パレット 100</u> 290-ナ</p> <p>永岡書店編集部 永岡書店</p> <p><u>この世界には、人生を豊かにする</u></p> <p><u>風景と色がある。</u></p> <p>旅の景色は気持ちを穏やかにしてくれたり、元気を与えてくれたりするものです。この本は、世界の風景写真を、青・水色・紫・黄・赤などの12色に並べ、パレットに見立てています。風景写真だけでなく、旅の予算や日本からのアクセス、地形・地質、生活・文化なども紹介しています。</p> <p>自由に旅に出たい気持ちがあふれ出てくる今日この頃。コロナが収束したら、どんな非日常を楽しもうかと、あれこれ思いを巡らせています。</p>	<p>石井 美菜子先生 (地歴公民科)</p> <p><u>バッテリー I～VI</u> B913.6-7</p> <p>あさのあつこ 角川文庫</p> <p><u>本気になれよ。関係ないこと</u></p> <p><u>全部すてて、おれの球だけを見ろよ。</u></p> <p>自分の力に絶対の自信をもつピッチャー、原田巧と、その才能に魅かれ、やめるはずだった野球に再び向き合うキャッチャー、永倉豪が、最高のバッテリーになるまでを描く名作成長ストーリー。</p> <p>田舎の中学校で、家族や監督、先輩など複雑な人間関係や自分の実力に悩み、苦しみ、それでも野球に打ち込む姿は青春そのもの。ぜひ高校生の夏に読んでほしい1冊です。</p>

